

大胡町堀越

新畠 C 地点 遺跡

序 文

近年の埋蔵文化財発掘調査は、小店舗などの小規模発掘から農業基盤整備に伴う土地改良事業等の大規模発掘で1つの村や古墳群が調査されています。それらは遺跡ごとにその性格や時代・出土遺物が違います。これらの調査の積み重ねによって僅かづつではありますが、郷土の歴史が解明されるものと確信します。

本遺跡の調査結果では、縄文時代から平安時代の複合遺跡であることが判明しました。発掘調査並びに整理事業実施にあたりご協力を戴きました関係各位に感謝申しあげ、担当者を始めとする作業員一同の労をねぎらいます。

本書が大胡町並びに赤城南麓の原始古代社会の究明の資料として活用されれば幸甚であります。

平成8年6月

大胡町教育委員会

教育長 銀持 平三郎

例 言

- 1、本書は、平成8年度工場建設に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2、発掘調査地区は、群馬県勢多郡大胡町堀越字新畑692、693-1、693-2、694-1番地に所在する。
- 3、発掘調査は、平成8年2月2日～3月28日まで実施した。
- 4、発掘調査は、大胡町教育委員会直営で実施し、山下歳信が担当した。
- 5、本書の作成は、編集・執筆を山下が行った。
- 6、発掘調査によって出土した遺物については大胡町教育委員会で保管管理している。
- 7、発掘調査参加者並びに整理参加者（敬称略・順不同）

閑谷清治 大原きみ子 井上美代子 勅使川原幸枝 小沢チヅエ 江原喜美 若林後次 神尾茂
福島逸司 都丸主女作 下山敏 山下雅江 五十嵐文江 鈴木久美子 田村志づ江 北爪珠美

凡 例

- 1、発掘区は10m区画を作り、東西方向から西に向けて数字、南北方向から北に向けてアルファベットを使用し、グリッド名は南東コーナーで呼称する。
- 2、遺構実測図の方位記号は、真北を表す。
- 3、遺構実測図に記した基準線は海拔で表した。
- 4、遺構・遺物のスケールは下記の通りである。

全体図 1:100 遺構 1:60 遺物 1:3

目 次

序文	新烟C地点の遺跡とその周辺の遺跡について述べる。
例言	新烟C地点の遺跡とその周辺の遺跡について述べる。
凡例	新烟C地点の遺跡とその周辺の遺跡について述べる。
目次	新烟C地点の遺跡とその周辺の遺跡について述べる。
挿図目次・図版目次	新烟C地点の遺跡とその周辺の遺跡について述べる。
I 発掘調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	1
III 検出された遺構と遺物	1~19
IV 成果と問題点	19

写真図版

挿図目次

第1図 新烟C地点遺跡と周辺の遺跡図	2	第8図 8~11号住居跡出土遺物	11
第2図 新烟C地点遺跡全体図	3	第9図 13号住居跡出土遺物	13
第3図 1~4号住居跡	6	第10図 包含層出土遺物(1)	15
第4図 5~9号住居跡	7	第11図 包含層出土遺物(2)	16
第5図 10~13号住居跡	8	第12図 包含層出土遺物(3)	17
第6図 1~5号住居出土遺物	9	第13図 包含層出土遺物(4)	18
第7図 5~8号住居跡出土遺物	10	第14図 包含層出土遺物(5)	19

図版目次

PL1 遺跡全景	
PL2 1、1号住居跡 2、1号住居カマド跡 3、2号住居跡 4、2号住居跡遺物出土状況 5、3号住居跡 6、3号住居跡遺物出土状況 7、脚台付壇出土状況 8、小形壺出土状況	
PL3 1、4号住居跡 2、脚台付壇出土状況 3、5~6号住居跡 4、5号住居跡カマド 5、7号住居跡 6、7号住居炉跡	
PL4 1、7号住居跡遺物出土状況 2、9号住居跡 3、8号住居跡 4、10号住居跡	
PL5 1、10号住居跡遺物出土状況 2、11号住居跡 3、11号住居跡遺物出土状況 4、12号住居跡 5、13号住居跡 6、13号住居跡炉跡	

I 発掘調査に至る経緯

平成7年6月、大胡町当局より町有地である堀越字新畑692番地外の扱いについて埋蔵文化財の取り扱いについて協議。同地は以前に土地改良が行われているが遺跡の存在・残存状況を確認するために試掘調査を行い、遺跡の存在を確認した。同地の利用は町の代替地であり、代替地取得者に調査負担の協力が求められない状況であるため、町費負担による発掘調査を実施することで合意。

II 遺跡の立地と環境

本調査区は、赤城山南麓に広がる高燥台地と放射谷が織り成す勢多郡大胡町堀越字新畑地内に所在し、上毛電鉄の大胡駅より北東1.5kmにある。新畑遺跡の立地する台地は、新畑から3つに分岐する。東は小比木・天神・天神風呂・經塚・諏訪東・小林と続く町内の濃密な遺跡地帯、中央が城泉寺・永閑寺そして堀越古墳(12)が立地する房間地区と続く台地、西は真木に続く。台地の両端には放射谷を利用して造られた薬師沼や二本松沼などの溜池によって潤う水田面の低地が続く。新畑C地点遺跡は標高200~210mの台地の東端に選地し、その範囲は東西250m、南北200mと考えられる。

周辺の遺跡には旧石器時代の三ツ屋遺跡(17)・中道遺跡(2)、縄文時代前期花積下層式期・二ツ木式期の集落跡(2・5・6)、前期黒浜・有尾式期の集落跡(8・9・10)、前期諸磯式期の集落跡(14・21)、中期加曾利E式期の集落跡(4・15・16・18・19)、後期集落跡(3)、古墳時代前期の石田川式期の集落跡(2)、古墳(5・6・7・10・11・12・15・16・19)、奈良・平安時代の集落跡(2・9・14・18・22・23)等があり、中道遺跡は平安時代の下級官人に掌握された集落跡と考えられる。

III 検出された遺構と遺物

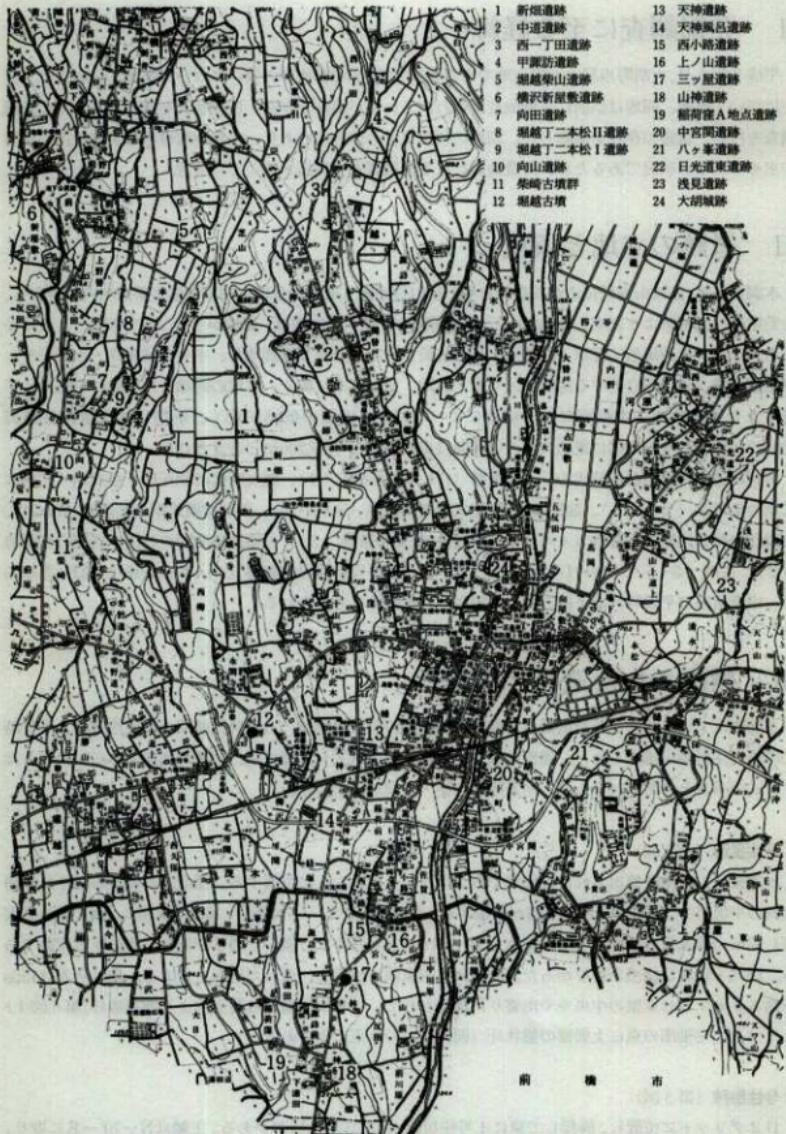
本調査によって検出された遺構は、縄文時代前期の竪穴住居跡、古墳時代前期の竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡が確認された。遺物は縄文時代前期の黒浜式～諸磯式期、古墳時代前期の石田川式と赤井戸式の系譜と考えられるもの、平安時代の甕・壺類が出土した。

1号住居跡(第3図)

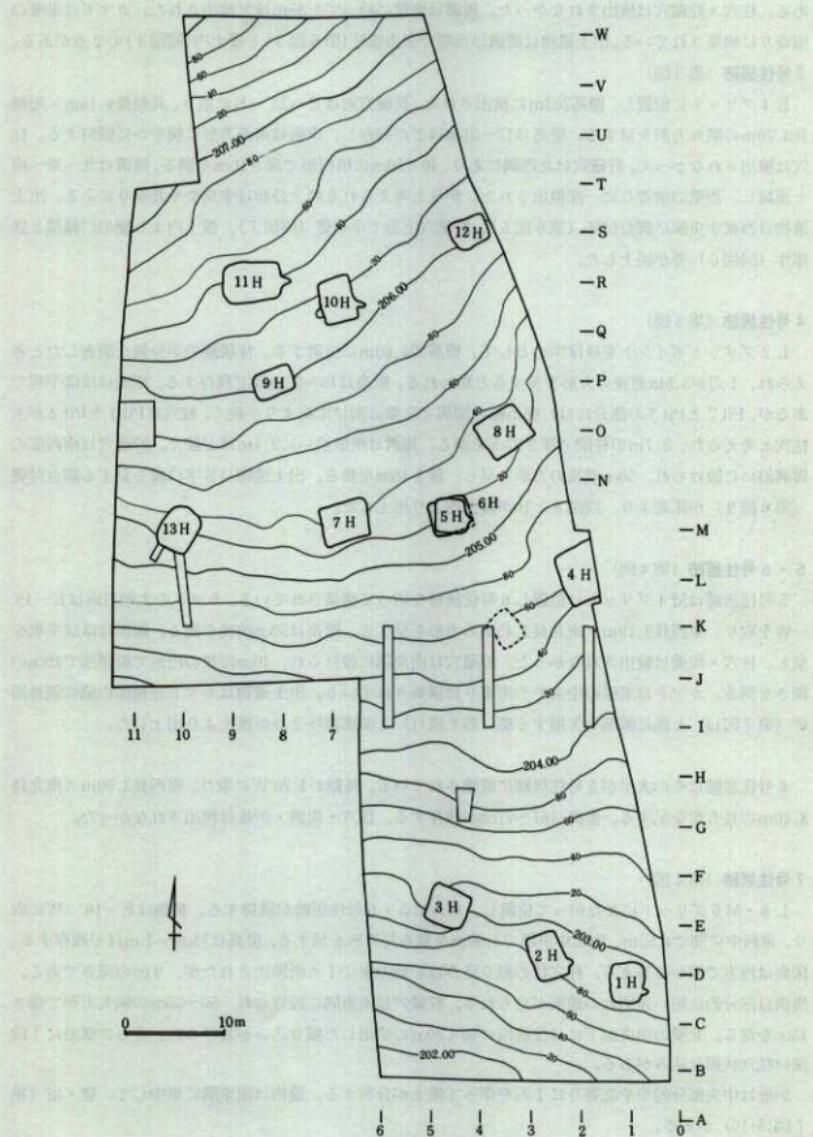
本調査区の最南に検出された住居跡でD1グリットポイントに位置する。標高202.90mの緩やかな南傾斜の平坦部で、西方に2号住居跡が隣接する。主軸はE-1'-Sに取り、東西最大長3.2m×南北最大長4.03mの隅丸長方形を呈する。壁高は32~40cmほどが残存し、僅かであるが南方に傾斜する床面である。柱穴・周溝は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に位置し、歪んだ円形を呈する。掘り込みは15cmを測る。カマドは東壁の中央やや南寄りに構築されている。出土遺物は覆土内より須恵器坏(第6図1)とカマドの左袖部の東に土師器の盤状坏(同図2)の2点のみである。

2号住居跡(第3図)

D2グリットに位置し、隣接して東に1号住居跡、西に3号住居跡がある。主軸はN-70°-Eに取り、東西最大長3.25m×南北長4.70mの長方形を呈する。壁高は16~40cmほどが残存し、床面はほぼ平坦で



第1図 新畠C地点遺跡と周辺の遺跡図



第2図 新煙C地点遺跡全図

ある。柱穴・貯蔵穴は検出されなかった。周溝は南壁に沿って2.35mほど検出された。カマドは東壁の南寄りに構築されている。出土遺物は周溝の西端で須恵器壺(第6図3)と覆土内(同図4)の2点がある。

3号住居跡(第3図)

E4グリットに位置し、標高203mに検出された。長軸方向はE-23°-Sを取り、長軸長4.15m×短軸長3.70mの隅丸方形を呈する。壁高は17~51cmほどが残存し、床面は南西方形に緩やかに傾斜する。柱穴は検出されなかった。貯蔵穴は北西隅にあり、40×50cmの楕円形で深さ10cmを測る。周溝は北~東~南と連続し、西壁の南寄りに一部検出された。炉址と考えられる焼土分布は中央やや北寄りにある。出土遺物は西壁中央部に脚台付壺(第6図5)、貯蔵穴上面で小形甕(同図7)、覆土内より甕の口縁部と底部片(同図6)等が出土した。

4号住居跡(第3図)

L2グリットポイントをほぼ中心として、標高204.60mに位置する。住居跡の半分強を調査したと考えられ、1辺が5.5m前後の方形を呈すると思われる。壁高は70~92cmほど残存する。床面はほぼ平坦であるが、Pit2とPit3の部分には1.65m幅の間隔で北壁に向けて高まりが続く。柱穴はPit1とPit2が主柱穴と考えられ、2.7mの柱間で深さ67cmを測る。周溝は南壁沿いに2.4mほど続く。貯蔵穴は南西部の周溝沿いに設けられ、50cm前後の方形を呈し、深さ46cmを測る。出土遺物はS字口縁を呈する脚台付甕(第6図9)が床面より、同図8と10が覆土内より出土した。

5・6号住居跡(第4図)

5号住居跡はM4グリットに位置し6号住居跡を切って構築されている。カマドの主軸方向はE-15°-Wを取り、東西長3.10m×南北長3.45mの方形を呈する。壁高は50cm前後を測る。床面はほぼ平坦を呈し、柱穴・周溝は検出されなかった。貯蔵穴は南東隅に設けられ、40cm前後の円形で最深部で19cmの深さを測る。カマドは東壁の中央やや南寄りに構築されている。出土遺物はカマド左袖部の脇に須恵器壺(第7図14)と他に脚部を欠損する甕(第6図11)と須恵器壺2点が覆土より出土した。

6号住居跡はその大半が5号住居跡に破壊されている。長軸がE20°Wを取り、東西長3.90m×南北長3.40mの長方形を呈する。壁高は67~77cmが残存する。柱穴・周溝・炉址は検出されなかった。

7号住居跡(第4図)

L6・M6グリットにまたがって位置し、東方に5・6号住居跡が隣接する。長軸はE-16°-Wを取り、東西中央部で4.55m、南北中央部で3.90mを測る長方形を呈する。壁高は73cm~1mほど残存する。床面は西方で僅かに高まる。柱穴状の掘り込みは炉址の東に1ヵ所検出されたが、9cmの深さである。周溝は部分的に短い途切れの箇所が見られる。貯蔵穴は南東隅に設けられ、50~55cmの隅丸方形で深さ45cmを測る。北壁の中央部下には住居内に40×80cmの突出した掘り込みが設けられ、さらに壁沿に1段深い柱穴状掘り込みがある。

炉址は中央部分的やや北寄りに1石を伴って焼土が分布する。遺物は南東隅に集中して、甕・壺(第7図15・16)がある。

8号住居跡（第4図）

N 3・O 3 グリットにまたがって位置し、標高205.30m付近に検出された。長軸はN-34°-Wを取り、長軸長4.70m、短軸長さ4.15mの長方形を呈する。壁高は18~44cmほど残存する。床面は中央部が僅かであるが皿状に窪む。柱穴は検出されなかった。周溝は全周する。貯蔵穴は東隅部に設けられ、2段の掘り込みとする。上段は85×50cmの方形で深さ7cm、内部の掘り込みは30×45cm、深さ33cmを測る。炉址は中央部に分布する焼土部分と考えられる。遺物は西と北隅に集中し、炉址の東にも口縁部片が見られる。いずれもほぼ床面より出土した。尚、図示しなかったが北隅で刀子状鉄製品が1点ある。

9号住居跡（第4図）

P 8 グリットポイント付近に位置し、標高206mに検出された。長軸はN-24°-Eを取り、長軸長3.85m、短軸長2.85mの隅丸長方形を呈する。壁高は18~31cmほど残存する。柱穴状の掘り込みは3カ所に検出されたが、主柱穴とは考えずらい。周溝は検出されなかった。貯蔵穴は東隅に設けられ、90×65cmの長方形で最深部で57cmを測る。中央の底面で器台（第8図26）が出土した。炉址は中央やや北西よりに分布する焼土部分と考えられる。

10号住居跡（第5図）

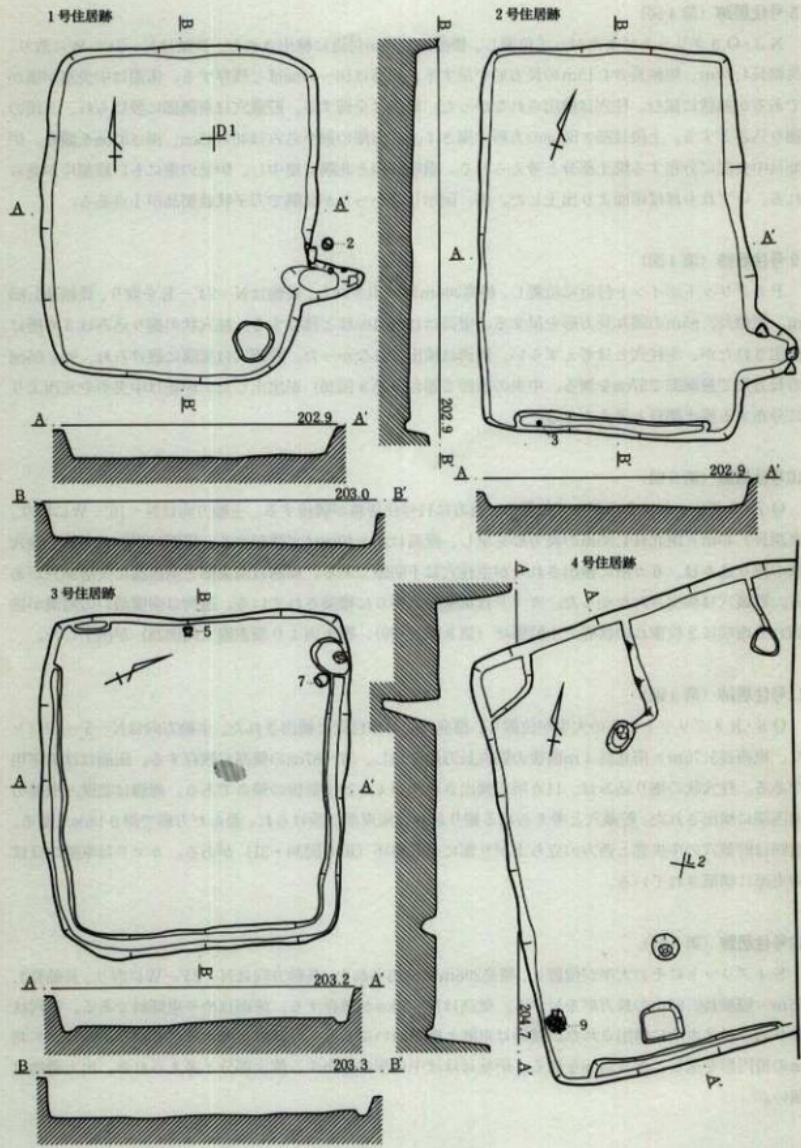
Q 7・8 グリットにまたがって位置し、西方に11号住居跡が隣接する。主軸方向はN-16°-Wに取り、東西長3.40m×南北長4.35mの長方形を呈し、壁高は23~40cmほど残存する。床面は平坦である。柱穴状の掘り込みは、6カ所に検出されたが主柱穴は不明瞭である。周溝は南東部と南西部に欠落部分がある。貯蔵穴は検出されなかった。カマドは東壁の南寄りに構築されている。遺物は南壁沿いの周溝が途切れる西端に2枚重ねの状態で土師器壺（第8図27・29）、覆土内より須恵器（同図28）が出土した。

11号住居跡（第5図）

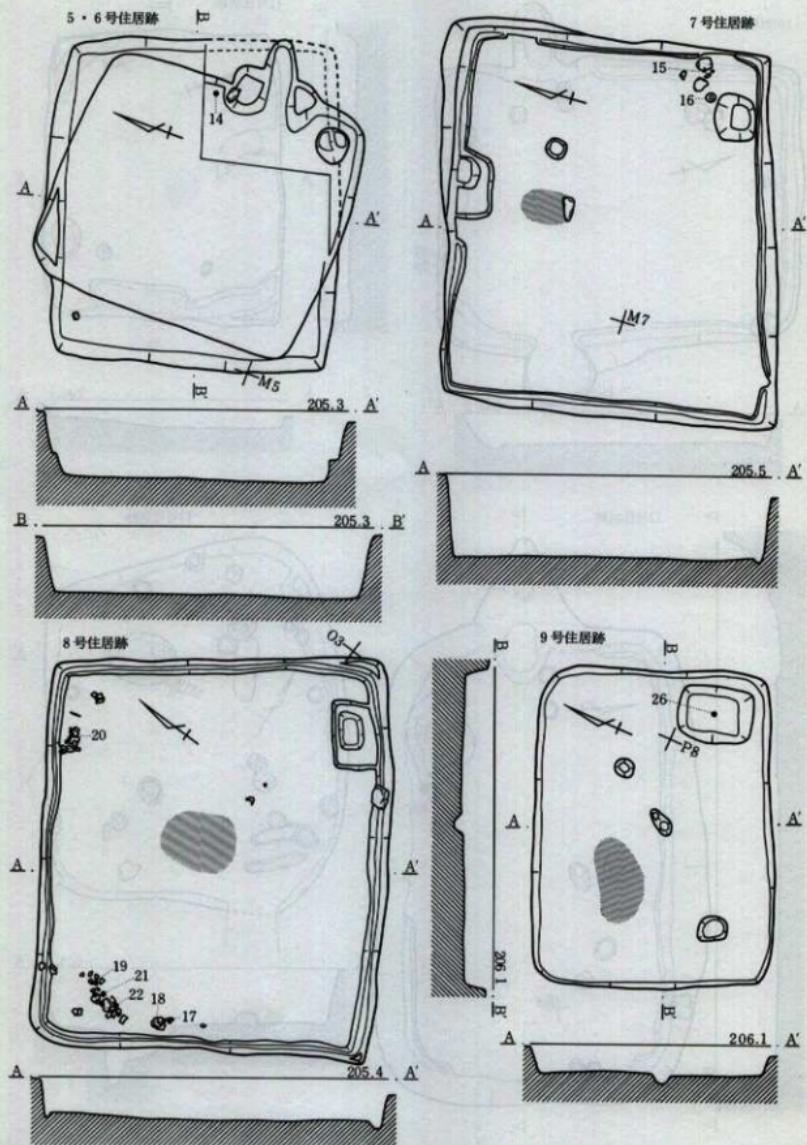
Q 8・R 8 グリットにその大半が位置し、標高206.40m付近に検出された。主軸方向はN-5°-Wにとり、東西長5.75m×南北長4m前後の隅丸長方形を呈し、57~87cmの壁高が残存する。床面はほぼ平坦である。柱穴状の掘り込みは、11カ所に検出されたが4~20cm前後の深さである。周溝は北壁と南壁の南西部に検出された。貯蔵穴と考えられる掘り込みは南東部に設けられ、歪んだ方形で深さ14cmを測る。遺物は貯蔵穴の中央部と西方の立ち上がり部に土師器壺（第8図30・31）がある。カマドは東壁のほぼ中央部に構築されている。

12号住居跡（第5図）

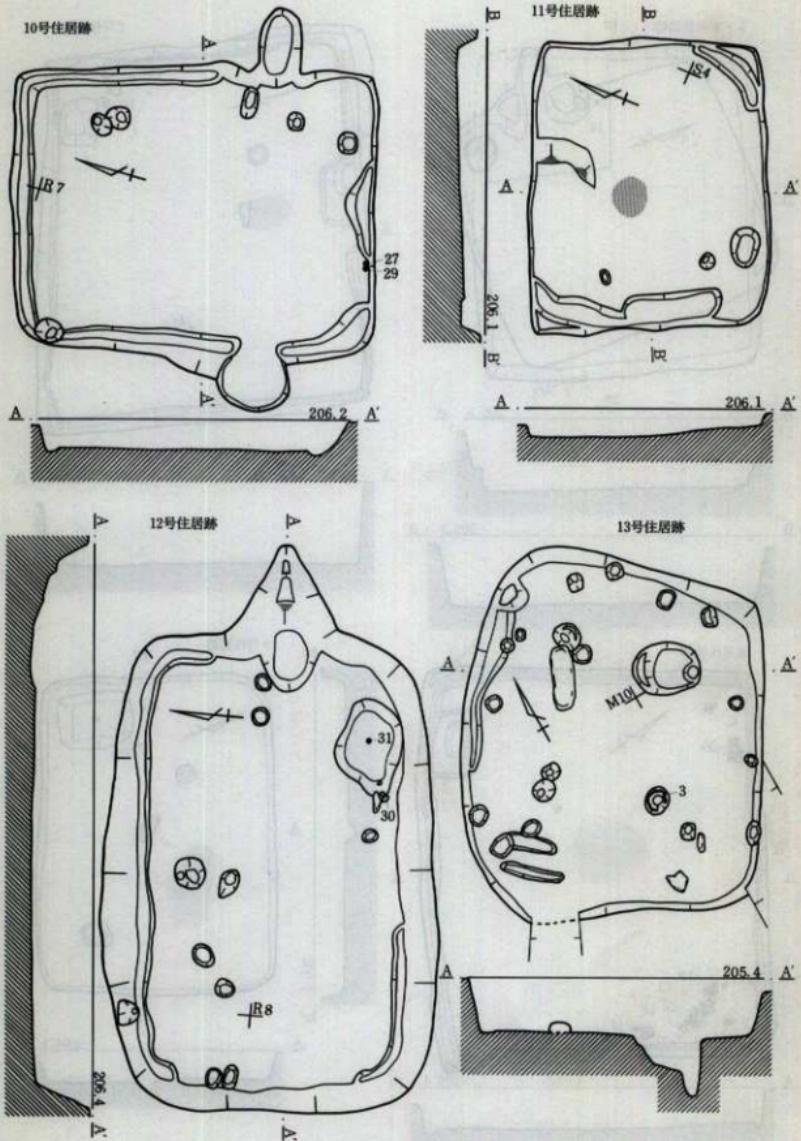
S 4 グリットにその大半が位置し、標高206mに検出された。長軸方向はN-25°-Wに取り、長軸長3.65m×短軸長2.85mの長方形を呈する。壁高は13~24cmが残存する。床面はやや東傾斜である。柱穴状掘り込みは2カ所に検出された。周溝は東隅と西壁沿いにある。貯蔵穴と考えられる掘り込みは24×48cmの楕円形を呈し、深さ24cmを測る。炉址はほぼ中央部に分布する焼土部分と考えられる。出土遺物は無い。



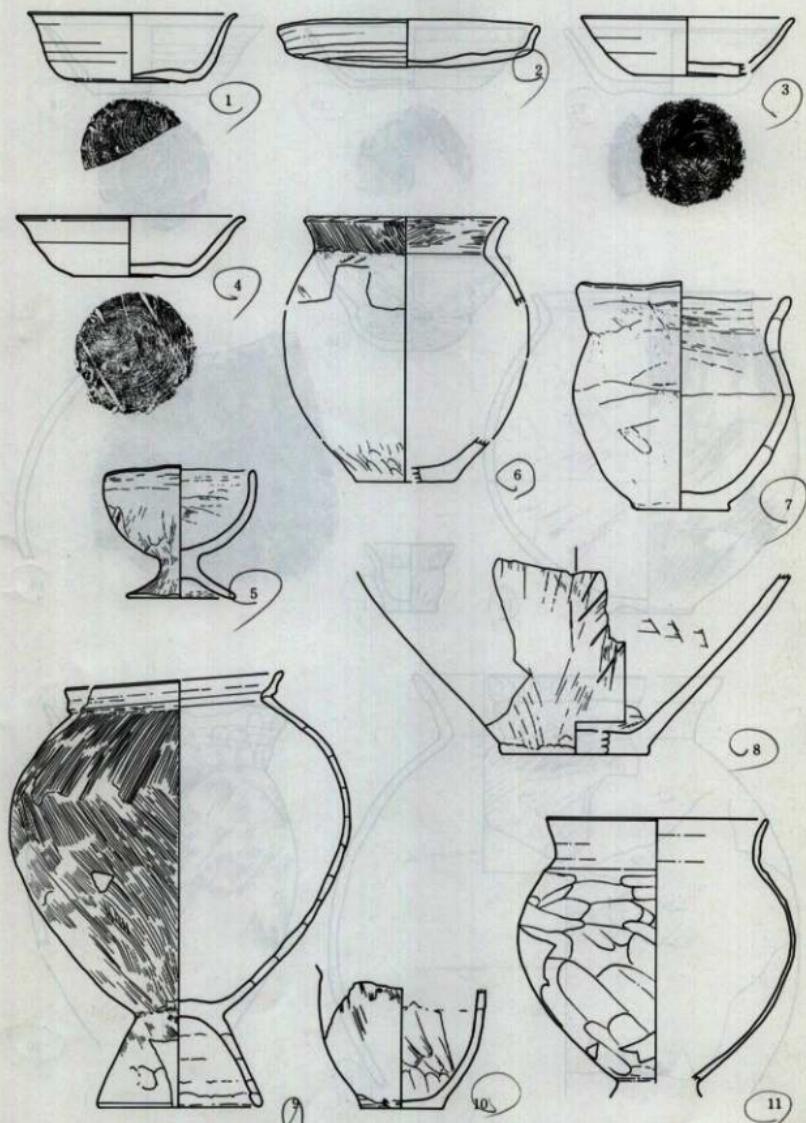
第3図 1~4号住居跡



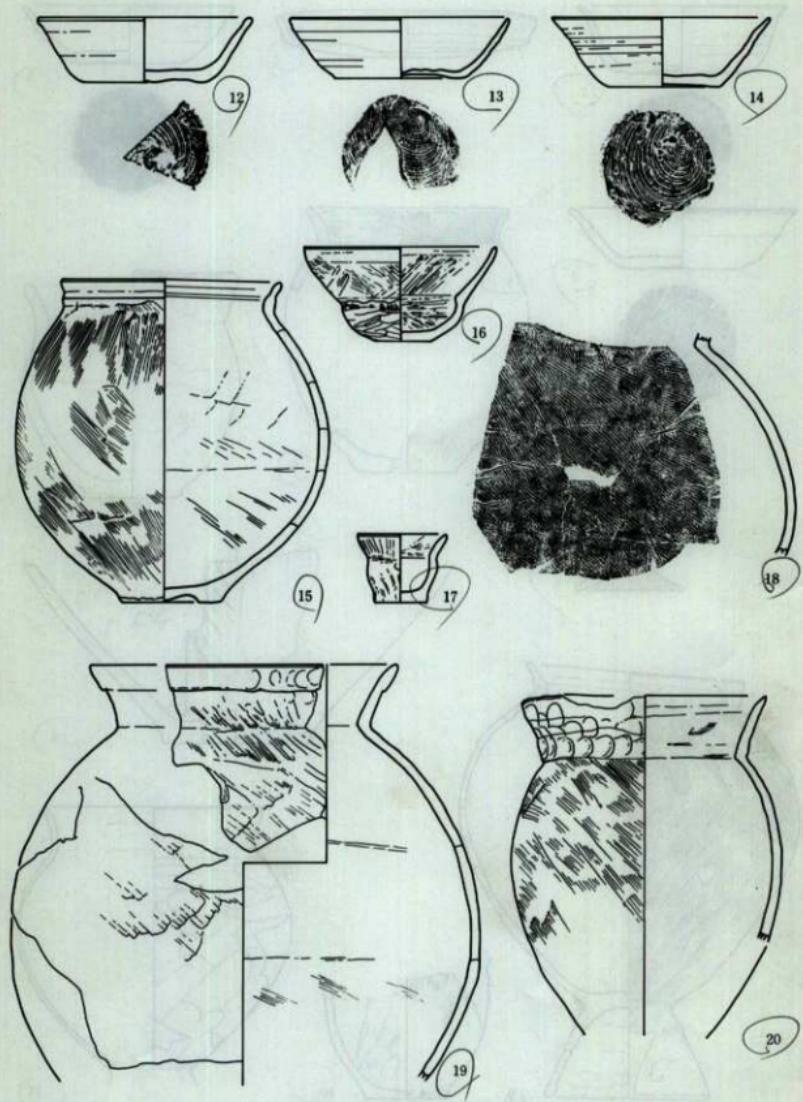
第4図 5～9号住居跡



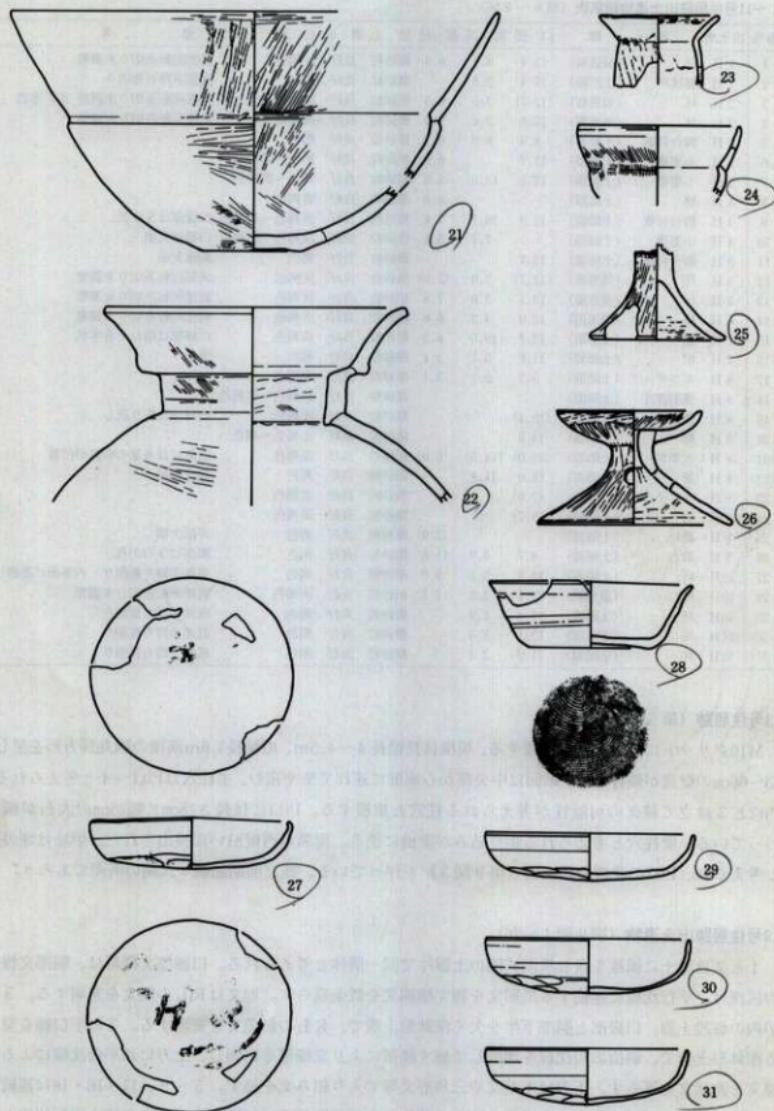
第5図 10~13号住居跡



第6図 1～5号住居出土遺物



第7図 5～8号住居跡出土遺物



第8図 8～11号住居跡出土遺物

1~11号住居跡出土遺物観察表（第6~8図）

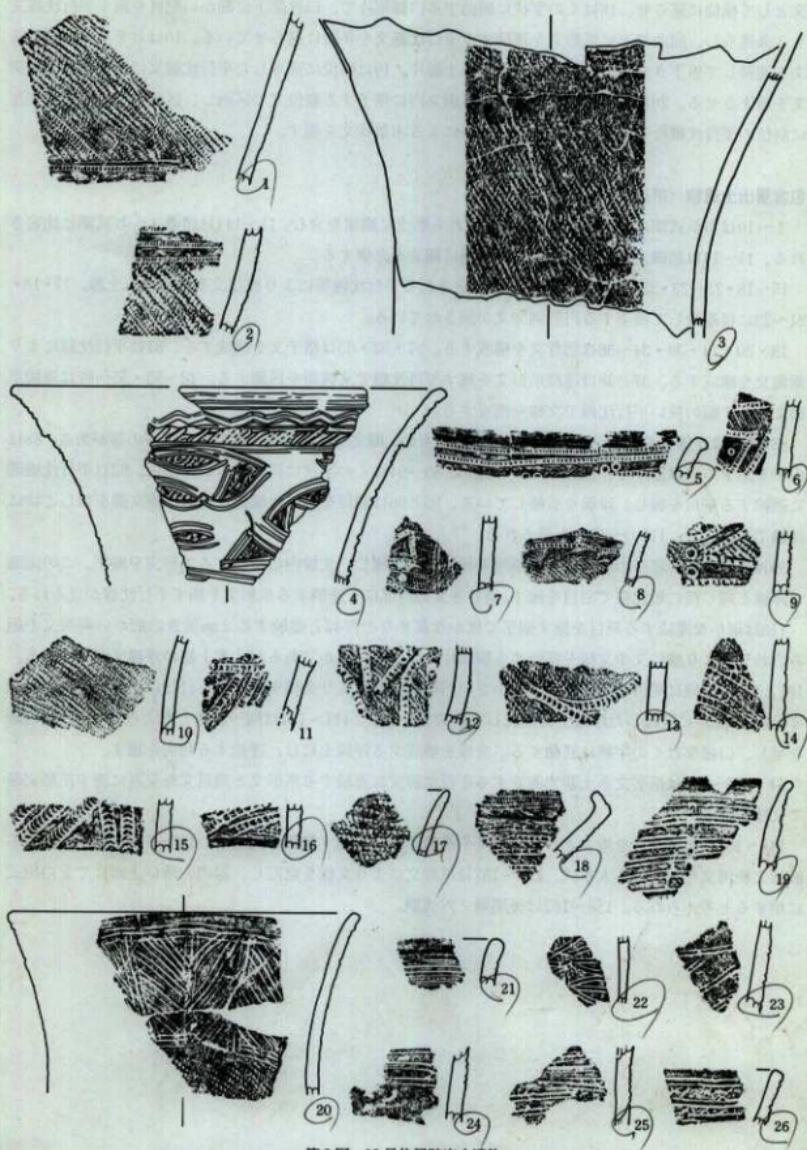
番号	出土地	器種	口径	器高	径胎	土焼	成色	色調	備考
1	1H	環（須恵器）	12.4	4.1	6.5	粗砂粒	良好	灰褐色	底部回転糸切り未調整
2	1H	盤状环（土師器）	15.4	2.8		微砂粒	良好	褐色	底部手持ち窓削り
3	2H	環（須恵器）	(12.7)	3.5	6.5	粗砂粒	良好	灰褐色	底部回転糸切り未調整 吉の墨書
4	2H	環（須恵器）	13.8	3.6	7.0	微砂粒	良好	灰褐色	底部回転糸切り未調整
5	3H	脚台付甕（土師器）	8.9	8.0	6.7	微砂粒	良好	褐色	
6	3H	小型甕（土師器）	11.7		6.0	粗砂粒	良好	褐色～黒褐色	
7	3H	小型甕（土師器）	12.5	13.8	5.6	粗砂粒	良好	褐色～黒褐色	
8	4H	甕（土師器）			8.8	微砂粒	良好	赤褐色	
9	4H	脚台付甕（土師器）	12.9	26.1	7.8	粗砂粒	良好	淡褐色～黒褐色	口縁部はS字状
10	4H	小型甕（土師器）			7.7	5.0	微砂粒	良好	淡褐色～黒褐色 口縁部欠損
11	5H	脚台付甕（土師器）	13.1			微砂粒	良好	褐色	脚部欠損
12	5H	環（須恵器）	(12.7)	3.9	(7.9)	微砂粒	良好	灰褐色	底部回転糸切り未調整
13	5H	環（須恵器）	13.1	3.6	7.8	粗砂粒	良好	赤褐色	底部回転糸切り未調整
14	6H	環（須恵器）	12.9	4.2	6.6	粗砂粒	良好	灰褐色	底部回転糸切り未調整
15	7H	甕（土師器）	13.2	19.5	6.3	粗砂粒	良好	淡褐色	口縁部は崩れたS字状
16	7H	甕（土師器）	11.6	5.7	3.4	微砂粒	良好	褐色	完形
17	8H	ミニチュア（土師器）	5.3	5.1	3.1	微砂粒	良好	赤褐色	
18	8H	甕胸部片（土師器）				微砂粒	良好	淡褐色～黒褐色	
19	8H	甕（土師器）	(18.4)			微砂粒	良好	淡褐色	口縁部は折り返し
20	8H	甕（土師器）	14.6			微砂粒	良好	赤褐色～褐色	
21	8H	大型甕（土師器）	(29.0)	(14.5)	(6.0)	粗砂粒	良好	淡褐色	底部には多量の砂粒が付着
22	8H	甕（土師器）	18.0	11.8		粗砂粒	良好	褐色	複合口縁
23	8H	ミニチュア（土師器）	(7.0)			微砂粒	良好	淡褐色	
24	8H	甕（土師器）	(9.7)			微砂粒	良好	淡褐色	
25	8H	高環（土師器）			(7.9)	微砂粒	良好	褐色	環部欠損
26	9H	器台（土師器）	8.7	6.9	11.6	微砂粒	良好	褐色	脚部に3つの孔
27	10H	環（土師器）	11.8	3.1	9.9	微砂粒	良好	褐色	底部手持ち窓削り 内外面に墨書
28	10H	環（須恵器）	12.1	3.9	7.2	粗砂粒	良好	灰褐色	底部回転糸切り未調整
29	10H	環（土師器）	12.4	2.9		微砂粒	良好	褐色	底部手持ち窓削り
30	11H	環（土師器）	12.1	3.3		微砂粒	良好	褐色	底部手持ち窓削り
31	11H	環（土師器）	11.9	3.4		微砂粒	良好	褐色	底部手持ち窓削り

13号住居跡（第5図）

M10グリットにその大半が位置する。規模は長軸約4~4.5m、短軸約3.6m前後の隅丸長方形を呈し、33~66cmの壁高が残存する。床面は中央部から東壁に連れてやや窪む。主柱穴はPit1~4と考えられる。Pit2と3は立て替えの可能性が考えられる柱穴と重複する。Pit3には長さ78cm×幅25cmの大石が横たわっている。壁柱穴と考えられる掘り込みが壁沿に巡る。周溝は西壁沿いに検出された。炉址は埋設炉と考えられ、Pit1の北に埋設土器（第9図3）を伴っている。縄文前期諸職a式期の所産であろう。

13号住居跡出土遺物（第9図1~26）

1と2は胎土に纖維を含む黒浜式期の土器片で同一個体と考えられる。口縁部文様帯は、胸部文様帯の区画は、平行沈線に連続する爪形文を施す横線文を数条巡らす。地文はR Lの縄文を充填する。3は炉内の埋設土器。口縁部と胸部下半を欠く深鉢形土器で、R Lの斜縄文を充填する。3は平口縁を呈する深鉢形土器で、斜位の短沈線を連続して施す隆帶により文様帯を区画し、上方には平行沈線による横線文と波状文を巡らす。下方は木葉文や三角形文等で入り組み文を施す。5~9、11~16・18は連続する爪形文を施す平行沈線文で文様等を施す土器片。5は口唇部下に連続する爪形文を施す平行沈線と2個1組の円形刺突を横位に巡らす。6・9・11は三角形文と円形刺突文を組み合わせている。8は区画



第9圖 13號住居跡出土遺物

文として横位に巡らせ、18はくの字状に屈曲する口縁部片で、口唇部下に細かい刻目を施す平行沈線文を3条巡らし、屈曲部下に爪形文を連続する平行沈線文を多段に巡らせている。10はおそらく円形刺突文を連続して垂下させる。19～26は沈線文系土器片。19は横位に巡らした平行沈線文に直交させて刺突文を垂下させる。20は平行沈線による横位区画文内に垂下する縦位文で区画し、区画内を矢羽状に交互に斜位の平行沈線を充填する。22は平行沈線による木葉状文を施す。

包含層出土遺物（第10～14図1～162）

1～10は黒浜式期の所産と考えられ、いずれも胎土に纖維を含む。11～144は諸磯a～b式期に比定される。11～14は諸磯式期の口縁部片で、器面に繩文を充填する。

15～18・21～23・25・26は諸磯a式期に比定される平行沈線等により波状文を構成する土器。17・18・21～23には連続して垂下する円形刺突文が施されている。

19・20・24・30・34～36は肋骨文を構成する。27・32・33は格子文を構成する。31は平行沈線により鋸齒文を構成する。37と38は連続爪形文を施す平行沈線で文様帶を区画する。42～53・55～87は連続爪形文を施す幅の狭い平行沈線で文様を構成する。

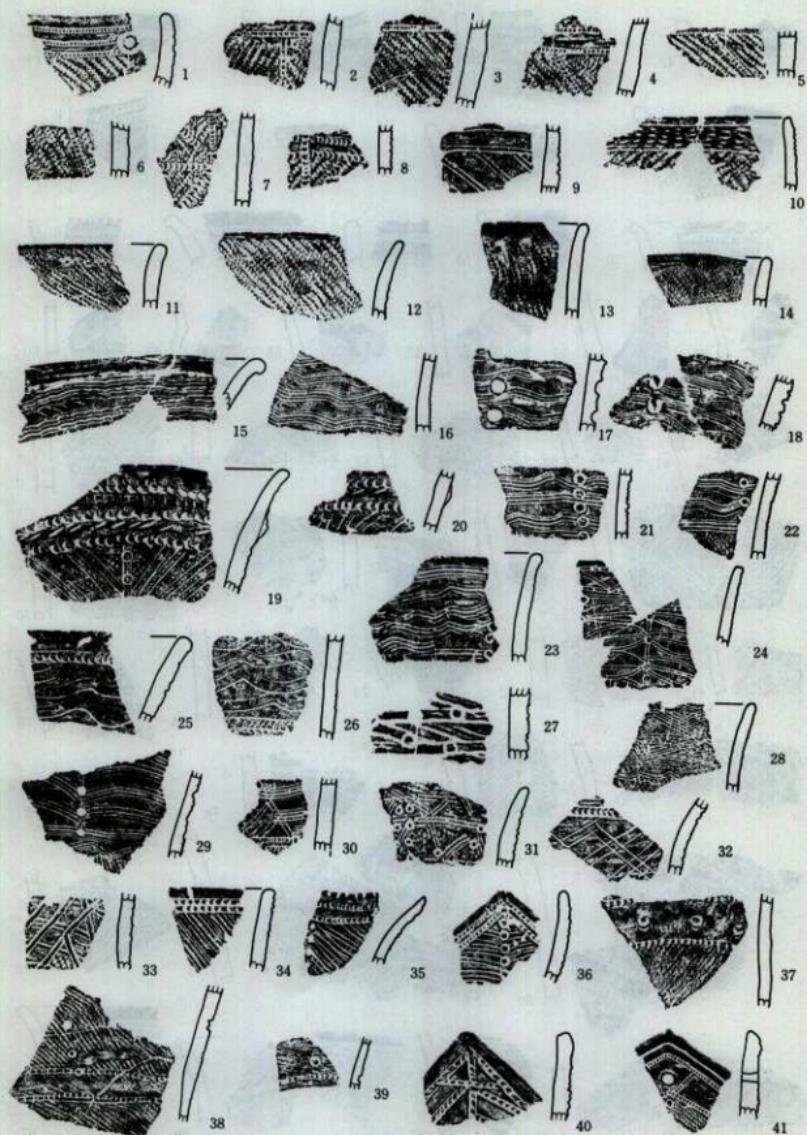
88～124は浮線文系土器。浮線上に刻目を施すもの、繩文を施すもの、刺突を施すもの等がある。88は山形を呈する口縁部片で、頂部に刻みを施す。89～94はくの字状に屈曲する口縁部片。93は平行沈線間に連続する刻目を施し、浮線を省略している。95と96は刻目を施した横位に巡る浮線文間をはしご状に浮線で連結する。118の一部にも見られる。

99は渦巻き状の隆帶の中央部を背割隆帶状に沈線を施し、沈線内に連続する爪形文を施す。この両端は浮線と同じ様に短沈線で刻目を施す。渦巻き文の内部にも連続する爪形文を施す平行沈線が見られる。

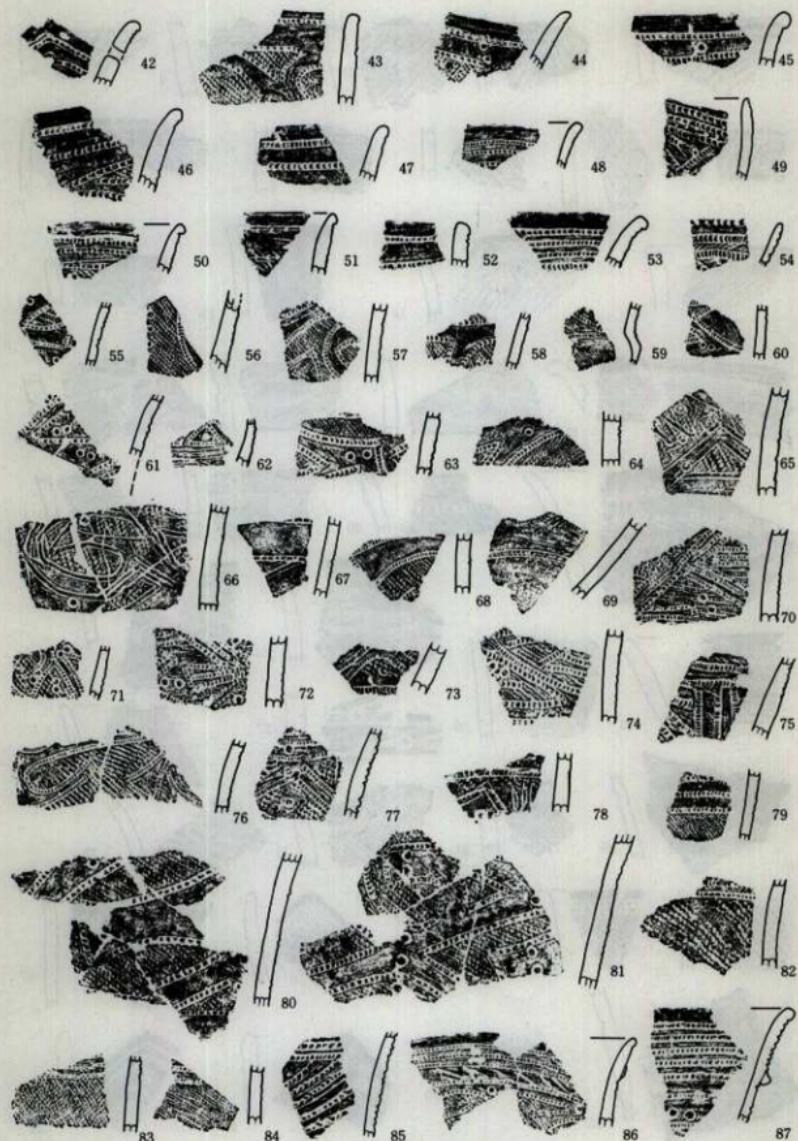
118は細かな連続する刻目を施す偏平で僅かな高まりの浮線と連続する2mm前後の細かい刺突文の組み合わせにより横位文や文様を意匠する胴部片で、上部に僅かであるが3本1組の浮線文が見られる。101と117も同様に刻目を施す浮線文と小さい円形刺突文により文様を意匠する。119は浮線上に繩文を施す。120は僅かに隆起した浮線上に連続して刺突文を施す。121～124は同一個体と考えられる。波状口縁を呈し、口縁部はくの字状に屈曲する。文様を構成する浮線上には、連続する刺突を施す。

54・125～144は爪形文系土器で並走する平行沈線文に連続する爪形文と刻目文を交互に施す爪形文帶で文様を構成する。

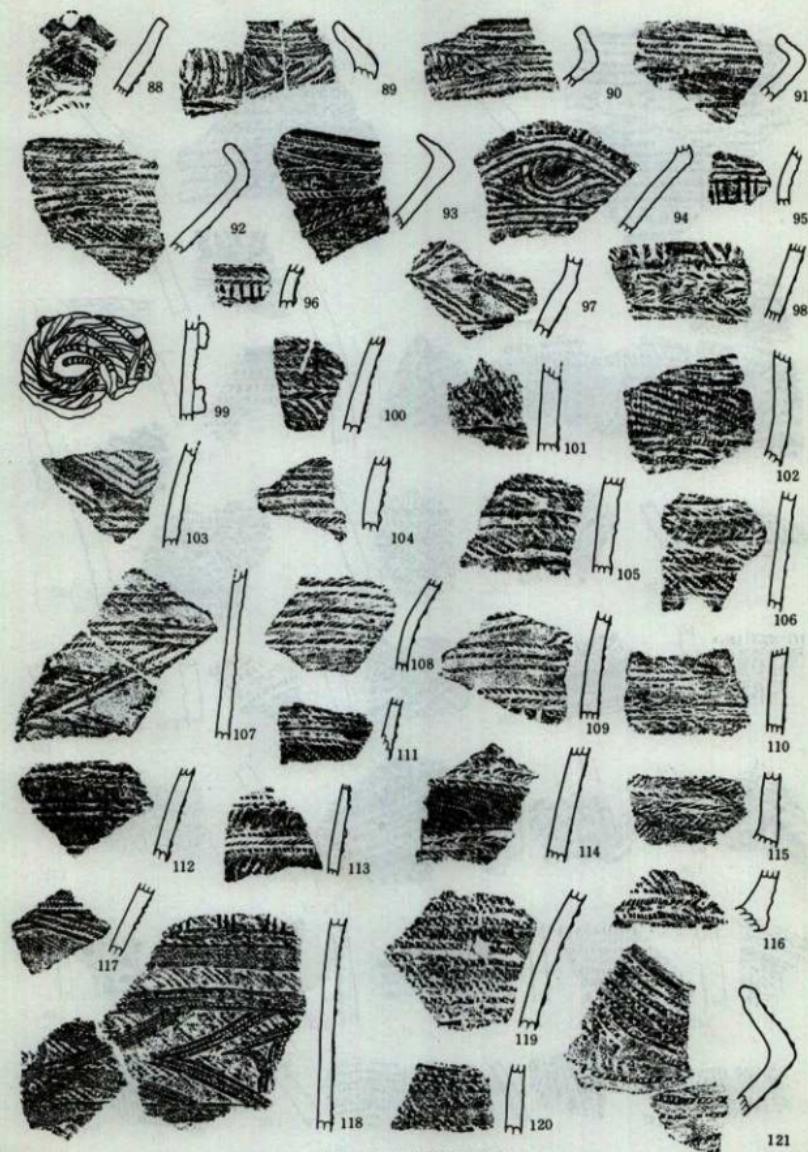
145～151は集合沈線を地文とし、貼付文や結節浮線文を施す諸磯C式土器。152～154は粘土紐による波状文や円文を貼付する大木式。155～157は爪形文により文様を意匠し、器肉の薄い土器片で北白川式に類すると考えられる。158～162は後期堀ノ内式期。



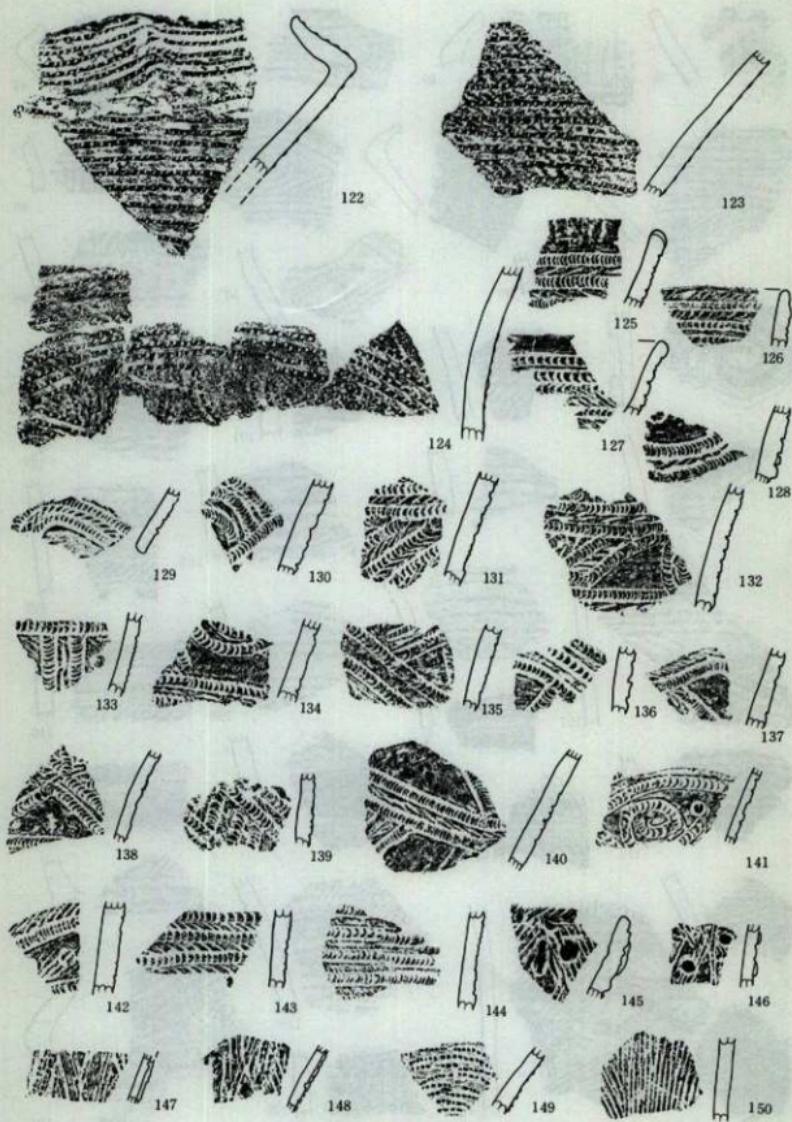
第10図 包含層出土遺物(1)



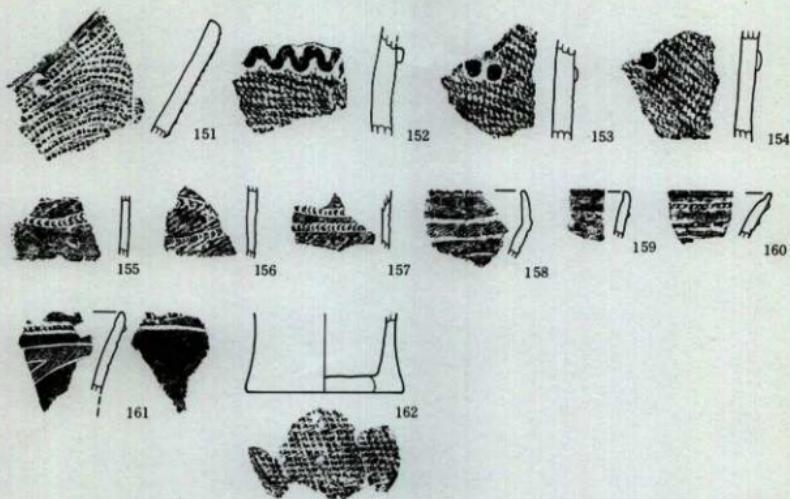
第11図 包含層出土遺物(2)



第12図 包含層出土遺物(3)



第13図 包含層出土遺物(4)



第14図 包含層出土遺物(5)

IV 成果と問題点

本遺跡では包含層から縄文時代前期の土器片と同期の住居跡、古墳時代前期の住居跡、平安時代の住居跡が検出された。縄文時代前期の黒浜～諸磯a～c式期の遺跡は、当町では中期の遺跡に統いて多い。今回の調査では諸磯a式期に該する土器片が多く出土した。

古墳時代前期の集落跡は、新畑C地点の東に広がり、新畑A・B地点さらに低地を挟んで中道遺跡の一部にまで広がる大集落と考えられる。出土した土器は、所謂「石田川式」を特徴付けるS字状口縁を呈する甕と共に赤城南麓を中心として分布する赤井戸式の影響を色濃く残すものが共存している。この他には前橋市境の前橋東商業高校遺跡・五十山遺跡がある。

平安時代の集落跡は、9世紀代の一時期の開拓集落として考えられ、谷地を挟んで300mの東方に位置する拠点的集落である中道遺跡との関連を解明しなくてはならない。



遺跡全景



1、1号住居跡



2、1号住居カマド跡



3、2号住居跡



4、2号住居跡遺物出土状況



5、3号住居跡



6、3号住居跡遺物出土状況



7、脚台付壙出土状況



8、小形甕出土状況



1、4号住居跡



2、脚台付甕出土状況



3、5・6号住居跡



4、5号住居跡カマド



5、7号住居跡



6、7号住居跡

PL 4



1、7号住居跡遺物出土状況



2、9号住居跡



3、8号住居跡



4、10号住居跡



1、10号住居跡遺物出土状況



2、11号住居跡



3、11号住居跡遺物出土状況



4、12号住居跡



5、13号住居跡



6、13号住居跡火跡

報告書抄録

フリガナ	シンバタ
書名	新烟C地点遺跡
編著者名	山下成信
編集機関	大胡町教育委員会 〒371-02 群馬県勢多郡大胡町堀越1,115番地
発行年月日	1997年3月31日

所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
新烟C地点	勢多郡大胡町堀 越字新烟	10304		36°25'21"	139°9'7"	報道2月2日 ~3月28日	3,700m ²	工場誘致

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新烟C地点	縄文時代 平安時代	縄文時代前期堅穴住居跡 古墳時代前期堅穴住居跡 平安時代堅穴住居跡	1軒 7軒 5軒	縄文時代前期黒浜～諸磯式 期の土器片 古墳時代前期 坏・壇・器 台・高坏・甕等 平安時代 須恵器坏・土師 器坏・土師器甕等	

大胡町堀越
新畠C地点遺跡

平成9年3月31日

編 集 群馬県勢多郡大胡町教育委員会
発 行 群馬県勢多郡大胡町教育委員会
〒 371-02 群馬県勢多郡大胡町堀越 1,115
TEL 027 (283) 1111
印刷製本 朝日印刷工業株式会社
